



《平和メッセージ》

いのちを尊び慈しむ心

司祭 エッセイ 矢萩 新一

私たちが最も大切にして
いるイエスさまの教えは、
「心を尽くし、魂を尽くし、
力を尽くし、思いを尽くし
て、あなたの神である主を
愛しなさい、また、隣人を
自分のように愛しなさい」
(ルカ10:27)です。

教会の中で平和の課題な
どについて少しでも政治的
なことに触れると、「心の
平安を求めて礼拝し、教会
に連なっているのだから、
政治的なことを語らないで
ほしい、押し付けたくないで
ほしい」と言われてしまうこ
とがあります。政治や経済
が不安定になってくると、
どうしても「自分ファース
ト」な思いが私たちの心を
支配しようとしてしまいま
す。あなたの「いのち」も
私の「いのち」も、神さま
から与えられた大切な宝物
であることを深く心に刻む
ことが、平和を考える時の

根本的な原則ではないで
しょうか。どんなに正当化
しようとも、「いのち」を
奪う権利は誰にもないはず
です。1996年の第49(定
期)総会において、日本聖
公会は「聖公会の戦争責任
に関する宣

言」を決議
し、平和の
器として歩
むことを目
指していま
す。戦争を
抑止するた
めに武力を
強化しておかなければとい
う主張がありますが、真の
抑止力となるのは、武力や
核の傘ではなく、私たちの
信仰心から来る、すべての
「いのちを尊び慈しむ心」
だと思っております。



つての侵略戦争の深い反省
に基づき、向かい合って交
流を深める関係から、東ア
ジアの平和をという同じ方
向を目指して歩んで行こ
うとしています。毎年6月
23日を挟み、沖縄週間/沖
縄の旅も継続され、武力で
はいのちが守られないこと
を歴史から学び、正義と平
和委員会がたてられています。

また、
6月5日の
世界環境
デーに近い
日曜日を地
球環境のた
めに祈る主
日として定
め、その後
1週間を原発のない世界を
求める週間としています。
原子力発電に対する日本聖
公会の立場は、子どもたち
の未来のために核のゴミを
残さないこと、原発事故を
経験した者としてその危険
性をしっかりと認識して廃
炉を目指すことです。
多様な価値観や年齢・

経験をもつ私たちが、共
に生きていくためには、
多くの時間や労力を要す
る面倒なことも知れま
せん。しかし、大切な
のちが奪われ、傷つき、
後悔をすることにならな
い為にも、今、私たちが
できることを考え、祈り、
行動する責任があると思
うのです。違いを指摘し
合って生きることも、
違いを認め合って、いの
ちを尊び慈しむという一
点で、手を取り合って歩
むことが、平和構築の基
本であり、奥義であると
信じます。様々なことに
無関心である自分自身、
現場へと足を運ぶことな
く正しさを判断しようと
してしまう自分、自己中
心の思いを捨てきれない
自分があることを自覚つ
つ、そんな弱さを持った
私たちがだからこそ、イエ
スさまの教えに常に立ち
返り、祈るものでありた
いと願います。

(管区事務所総主事)

2023 年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ 〜いのちに仕え、となりびととなるために〜

宣教主事 福澤 眞紀子

「2023 年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」(以下「呼びかけ」)がカードになって各教会・礼拝堂に配布されました。皆さんはもうお持ちですか？私達の教会が、どこに立ち、どこへ向かうのか話し合うために開かれた宣教協議会のまとめが、「呼びかけ」となっています。

東京教区では、宣教協議会後の参加者の集いが3

- 月と5月に行われ、8月にも予定されています。へ①神のみ声に耳を傾けよう
- へ②人々の声に耳を傾けよう
- へ③世界の声に耳を傾けよう



の声に耳を傾けよう。一つ一つの教会、また私達一人一人がこの「呼びかけ」をどう受け止め、応じていくのか考え続けるためです。第1回の集いで、一つ一つの教会を巡って「呼びかけ」を伝える提案が出されました。一斉の報告会よりも、各教会が主体となって考えられるのではないかとの理由です。全ての教会で話し合いの開催をお願いしようということになり、第2

回の集いで、その具体的な進め方が話し合われました。各教会の事情に合わせて、参加者が所属する教会には参加者本人を通じて、そうでない教会には、教会グループ協議会や牧師・管理牧師を通じて、教会単位で宣教協議会「呼びかけ」について考える機会がもてるよう働きかけていくことになりました。情報共有の必要性についての意見も出されました。

『コミュニティの「教会談話室」には、各教会の事柄が紹介されています。それを読むと、どんなに小さな群れであろうとも、私達は

イエス様によって集められ生かされています。「教会」だと感じます。受けたい恵みや賜物を神様の働きのために、どのように用いていくことができるでしょうか。何に開き、何を改めていくべきなのでしょう。教会が歩み続ける道を示す方位磁針として、「呼びかけ」の言葉を繰り返し心に留め、ACTS(実行)として参りましょう。

【司祭の11冊】

『科学者は神を信じられるか…クオーク、カオスとキリスト教のはざままで』
『科学者はなぜ神を信じるのか…コペルニクスからホーキングまで』

司祭 塚田 重太郎

先日、立教女学院のキリスト教センターで行っているキリスト教入門講座に参加されている方から、次のような問いかけがありました。

その方の長女は小さい時から教会に通っていて、キリスト教関連の絵本や本が大好きで、友だちにイエス様のことやキリスト教のことを話す子だったそうです。しかし、思春期に入ってから、外に引っ越し、学校で生物の学びをするようになった頃から、キリスト教から離れるようになりす。自分の意志で、キリスト教系ではない学校に進んだその娘さんが、最近、こう尋ねたそうです。「学校の生物とか理科の先生でクリスチャンの人は、授業を教えるときに困らないのかな？」と。そして、この参加者の方から私への質問は、「先生だったらどのようにお答えになりますか？」でした。



アップデートすべきかわからず、自然科学の挑戦に向き合うことのできない教会が語るキリスト教は、「子ども時代が過ぎれば卒業するおとぎ話」になると思っていました。

ということで、今回は自然科学と信仰との対話に関係する2冊の本を紹介させていただきます。1冊目はジョン・ポーキング著の『科学者は神を信じられるか…クオーク、カオスとキリスト教のはざままで』、もう1冊は三田一郎著『科学者はなぜ神を信じるのか…コペルニクスからホーキングまで』です。どちらも講談社ブルーバックスシリーズです。

ポーキングホーンはポール・デイラックの直弟子であり、ケンブリッジ大学の数理物理学教授でしたが、51歳の時にクインズカレッジ総長の座を退きます。そして、按手を受けた奉仕職として教会で働くために、神学校に行き、イングラッド聖公会で司祭となりました。三田一郎氏も素粒子物理学者でありながら、カトリック教会の終身助祭でもあります。

「科学と信仰」の対話の入り口として、日本語で読める数少ない良書として、この2冊をお薦めいたします。

悩み続け、疑い続ける

執事 福永 澄

このたび、神様のお導きと皆様のお支えをもって、高橋宏幸主教様により公会の執事に按手されましたことを感謝し、主の御名を賛美します。

聖職候補生志願をして以来、さまざまな場面で異口同音に「あなたの召命感とは？」と皆さんに問われてきました。その都度できるだけ丁寧にお話しさせていただいてきたつもりですが、言葉を尽くせば尽くすほど、自らの心の想いとはかけ離れてしまう、作り物の召命感のようになってしまってもどかしさを感じてきました。勿論、そういったもどかしさの原因は自分自身の中にあります。

「神様に仕えたい、教会のために働きたい」といった想いが、神様からの招きによるものなのか、自分自身の勝手な思い込みなのか、と悩みます。

ですから、周りの方々から

問われる以前に「私の召命感とは何なのか」を問い続けてまいりました。私は本当に神様に召されているのか、聖職者として仕えていけるのか、私など聖職者には相応しくないのではないか、もう逃げてしまいたい…などと頭の中をグルグルと回り続けます。聖職になるという確信も、諦める決心もつきませんでした。一つだけ揺らぐことがなかったのは、何度悩んでも、「神様に仕えたい、教会のために働きたい」という想いに立ち戻るといことです。

聖職按手式の前日に、小山西祈りの家で北関東教区と東京教区の教役者黙想会が行



大山 洋平新司祭 高橋 宏幸主教 福永 澄新執事

われ、高橋宏幸主教様の講話においても、黙想の分かち合いの中で語られる先輩聖職の先生方も、私と同様の悩みを抱えておられることを知りました。

しかし、皆が同様の悩みを持つているからといって、何も考えなくてもよいということにはなりません。大切なのはこの悩みから逃げないことでしょう。

今後も、自らの召命感を疑い続け、問い続けつつ、このような私をも用いてくださる神様に感謝し、信頼して歩んでいきたいと思えます。どうぞお祈りをもってお支えください。

新しい任地に遣わされて

私の内におられるイエス様

司祭 李 相寅 (イ・サンイン)



中学校・高等学校のチャプ

新しい環境に入ったたり、新しい状況に直面したりすることが、時には大きな恐れを与えます。それは以前の慣れ親しんだ生き方ではないかもしれないような危機感から出るものらしいです。

心理学者であり哲学者の

カール・ヤスパースはこれを

カール・ヤスパースはこれを

限界状況(死、苦痛、罪悪感、変化、出来事)だと定義したりもします。これは自分の有限性と無能力を経験することであり、この時、人間は次の質問や要求を受けけることとなります。

まず、自分の人生で本当に重要なことが何なのか、自分の本来的な人生が何なのかという質問、そして既存の生き方と異なる飛躍的な新しい生き方を要求されることとなります。

私は1979年に韓国で生まれ育ち、2012年に宣教師として日本の九州に来て働き始め、2024年4月からは東京の立教池袋

レンとして働いています。現在私はカール・ヤスパースが言ったその質問と要求に向き合い、それに応じています。聖書をよりまともに読み、また祈りを通して、イエス様が私の内におられるようにすることです。

もちろん新しい仕事の解決や処理、新しい人たちの交わりも大切でしょう。しかし私の根源的な恐れは変わらず、その恐れが分離と警戒、形式的な取りつくり、無関心に繋がらないようにしたいです。私に与えられた新しい仕事、新しい人々が、私の内におられるイエス様との交わりによって、一緒に愛に向うことができますように心から願っています。

「かの日には、私が父の内におり、あなたがたが私の内におり、私があなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。」

(ヨハネによる福音書 14:20)

追悼 主教ペテロ植田仁太郎師父

主教ペテロ植田仁太郎師を偲んで

司祭 神崎 雄二

故植田仁太郎主教は、2024年4月8日、午後3時10分頃に、ご逝去なさいました。享年83歳でした。直接の死因は、「脳皮質下出血」でした。お亡くなりになる8日前には、イースター礼拝にも出席され、ご逝去当日の意識もはっきりとしておられました。全く自然に、苦しみもなく、「ゴトツ」と、息を引き取られたという事です。

植田仁太郎主教と初めてじっくりと話し合う時が与えられたのは、1979年、パプアニューギニアに一緒に送っていた時でした。ジャングルを超え、海を越えて、ポボンデッタという海岸の小村に私たちが乗った小舟がたどり着いた時、海岸を埋め尽くすように、パプアニューギニアの村人が待っていて下さいました。現代の物質的な豊かさとは異なる世界がそこにはありました。男性は皆、木の皮をなめして作った布の「ふんどし」を締め、女性は同様の布で作った腰巻を身につけ、上半身には、同じ布を羽織り、その布を蝶のように上下し、舞い、全員が歌い、踊り、歓迎してくださいました。その時感動で全身が震え、涙が出て来

た事を忘れることが出来ません。

植田主教は、その様な感動を、日本キリスト教協議会(NCC)やアジアキリスト教協議会(CCA)や世界教会協議会(WCC)における働きを通して、随所で同様の経験をなさったと伺いました。長年の「宣教奉仕・開発」の働きを通して、災害や貧困に苦しむ各国の人々と交わり、その人々の生きる力に感動しながら、苦難の中にある人々を支え続けられました。決して上から目線の金銭的な援助に終始しませんでした。そしてその愛のある交わりや恵みを、逆に世界の諸教会に発信なさいました。

「キリストは、今も尚、貧しく苦しめられている人々の中で生き生きと働いておられる。キリストは十字架上で殺されたが、復活し、今もなお、苦しむ人々の中で生き生きと働いておられる。」そういった信仰は、主教としての牧会にも地道に示されました。そのような信仰をしっかりと継承し、私たち困難の中にある人々と出会い、互いの人々の中にある輝きと出会い、互い

に仕え合う関係を大切にして行きたいと思えます。

心からの感謝

目白聖公会 宮脇 博子

30年程前植田主教(当時司祭)が管区事務所の総主事になられ「事務所は人数が少なく猫の手も借りたい」「猫の手なら！」と立ち話をした流れで、私は管区事務所に通っておりました。総主事というお立場がどれ程大変な責任を負うものであるかを、役立たずの猫ながらお察しました。世界の1管区として、又全国の11教区の各教会に課題は山積していたでしょう。ちょうど祈祷書、聖歌集が文語から口語に変わった頃でした。多くの反対の声が寄せられていたと思います。つい私は「賛同どころか非難されているような中で、よくなさいますね？」と聞いてしまいました。すると「僕は神様にボロ雑巾のように使ってもらえたらいいと思ってるんですよ」とおっしゃいました。今思えば口語にしてゆくことは必然でしたが。



植田主教はお若い頃から、世界の新しい神学(聖書学、礼拝学など)の論文、書籍を読み、様々な教派の神学の流れ、方向性等を学んでおられたようです。語学も堪能でいらつしやいますし、それらを学ばれて、そもそもキリスト教会はどうあるべきかを、考えておられたと思います。そして、東京教区の主教に選ばれ、私は猫の手でなく宣教主事として働かせていただきました。東京教区の宣教課題を具体的に話され、仕事はいくらでもある訳で忙しい毎日でした。人の思いではなく、神様から見た優先順序を何より求めて判断し、言うべきことは言う、ご自分が嫌われてもそれは背負う、という方だと感じておりました。困難な中にいる人々に手を差し伸べることに優先順序が高く、強い意志で行動されました。「神様しか見てないんだからね」と伴侶の栄基さんがおつしやり、一緒に笑ったことが何度かあります。心が純粹で、本当に謙虚な主教でいらつしやったと私は思います。「神さまに召されました」と栄基さんからうかがって、「聖職者は任務を終えたら静かに黙って去るのが良い」とつぶやかれた時のことを思い出しておりました。植田主教の下で働かせていただいた年月は、私にとって生涯心に深く残る恵みとなりました。心から感謝を申し上げます。

型破りの副牧師 植田仁太郎執事

阿佐ヶ谷聖ペテロ教会 森本 光生

聖ペテロ教会では、戦後1949年に建設された牧師館兼用の仮聖堂がいかに手狭になり、当時不用となった立教小学校の理科教室の資材を頂いて、大きめの仮聖堂を建設することになった。1966年に「理科教室仮聖堂」および独立した木造の牧師館が完成した。1967年に、京都教区の山田襄司祭が教務院（現管区事務所）院長として東京に赴任が決まると、山田司祭は聖ペテロ教会の新築の牧師館に引越され、無給の嘱託牧師として聖ペテロ教会の主日礼拝を担当されることになった。山田司祭は1981年11月に日本聖公会総会で東京教区主教に選出されるまで、聖ペテロ教会の牧師を務められた。

植田仁太郎執事は、このベテランの山田牧師のもとで、聖ペテロ教会の副牧師を1969～1981年に務められたのが、聖ペテロ教会との関わりであった。植田執事は1968年に執事按手を受けられたばかりで、当時YMCAが本務であり、主日勤務として聖ペテロ教会の日曜礼拝に出席されていた。丁度、植田執事は新婚ほやほや、榮基夫人やお子様達も主日礼拝に出席されていた。

私自身、1966年に結婚し、直後2年間はフランスに留学で、帰国後は

大学紛争に巻き込まれていたもので、植田執事の着任時の聖ペテロ教会での様子は全く憶えていない。ニコニコ笑いながら礼拝開始時には祭壇の脇で補式をされていた。代祷をされるときには、祈禱書から離れて、持ち込まれた当日の朝刊をご覧になりながら、代祷をされるということもしばしばであった。

10年以上執事として副牧師を務められていたので、聖ペテロ教会の中では、早く司祭様になって聖餐式の司式をしていただきたいという希望が芽生えてきた。ご本人としてはYMCAやNCC等での御本務のこともあり、執事職を貫くのも聖職の道だと確信されていたのかもしれない。私に取っては2年先輩になるので、聞いたですことはなく終わってしまったが、その後、1986年について司祭按手を受けられた。聖ペテロ教会を代表して、植田司祭の勤務教会である聖愛教会まで祝意を述べに行ったことを憶えている。

植田司祭は2001年3月には、東京教区主教に就任された。毎年の巡回では、「ペテロはアットホームだよ」とおっしゃっていたのが有り難い思い出である。

「裏方」の役割を説く植田仁太郎師

管区事務所広報執事 鈴木 一

植田仁太郎主教が管区事務所総主事として在職されたのは、日本聖公会第40（定期）総会（1988年4月）で河野裕道師から交代して就任され、第46（定期）総会（1994年5月）に植松誠師と交代し辞任されるまでの6年間だった。かつて管区事務所が渋谷区東1丁目4番地21号に在った時代から、新宿区矢来町の現在地に移転した1992年2月をまたいで、日本聖公会管区の総主事の任に当たられたことになる。その時期に植田総主事の下で在職した職員はもう誰も居ない。

私が管区広報主事を拝命したのは1998年である。ただし、管区祈祷書等検査委員会の一員として渋谷時代の下田屋風の管区事務所に毎月通ったこともあり、時空的に植田総主事とのつながりを持つ管区関係者であったと言ってもお許しただけよう。

植田総主事は「管区事務所の移転終わるー感謝とご報告ー」という文章を「管区事務所だより」（1992年1月25日・第60号）の巻頭に記されている。とても感銘深い一文であるのでご紹介させていただく。

（略）聖公会センターが完成し、無事管区事務所の移転を終わりました。

6階建てのビルの新築などということには全く経験がない管区事務所のスタッフですので、引越しが済んだ今も、何か大きな計算違いがあるのでないかと、大変不安です。維持管理費の増大は言うまでもなく、すでに造り上げてしまった間取りやスペースの取り方まで……。この上は、新たに与えられた事務所の機能をフルに活用して、日本聖公会全体の前進と充実に、お役に立つようしなければと念じている次第です。

本来「事務所」というのは、教会の舞台裏です。今回、その舞台裏を充実にしていただいたわけですから「表」の舞台で皆さまが充分にご活躍頂けるよう一層努力し、また、皆さまにそのように用いていただきたいと願っています。「裏方」が果たすべきことを、どしどし御指示ください。（以下略）

総主事としての植田師が、管区事務所の職務のあり方・本質を「裏方」と表現されたことに強く胸を打たれる。植田師が上記の文章を発表されて四半世紀が過ぎているが、師の説かれる「裏方」の精神は、時代が流れても常に私たち毎日の職務の基本として自覚せねばならないと思うからである。

教会談話室

聖アンデレ教会 阿久津 朋宏

聖アンデレ教会の新たな取り組みについて

聖アンデレ教会では2024イースター晩祷より、新たな宣教・奉仕の取り組みとして現代的音楽による礼拝(コンテンツポラリーワークショップ)を始めました。会衆の方々と共に、音楽によって生まれる喜びを分かち合い、その分かち合いそのものを神さまへお捧げする、そんな礼拝です。器楽演奏や歌唱のタレントをお持ちの方は一緒に活動してみませんか?

三光教会

新司祭をお迎えしての4月、上田憲明司祭は管理を2つされているため他3名の司祭様の礼拝に授かるという幸運!?に恵まれております。委員会活動も再開しつつ、コロナの頃から始めた子ども食堂(ひかりっ子食堂)は月1回ですが地域の方が教会を訪れます。最近愛餐会を月2回スタートし共に食卓を囲んでいます。三光教会へいらっしやいませんか?

真光教会

真光教会がこの地に礼拝堂をかねた牧師館を建てたのが1974年、

今年には町田宣教50周年です。遠く赤羽からの移住なので野田昭次司祭ご家族以外は信徒ゼロからの開拓伝道です。めざましい進展と沿線の延伸が展望された東急田園都市の終点をこえて立てられました。今年はいベントなし、6月2日に感謝の祈りだけ捧げました。

東京聖マリア教会

鈴木 裕子

5月26日、中村淳司祭の牧師任命式が行われた。定住牧師が与えられたのは実に50年ぶりのことである。また1名が堅信の恵みに与った。6月1日、創立100周年記念礼拝を捧げた。主教、歴代管理牧師、城南G、町内会、信徒・教友75名が小さなマリア教会に集い、心温まる礼拝となったことに感謝。今後も地域の信仰の拠点として歩み続けたい。

大森聖アグネス教会

「馬込文士村」といわれた地域にある「木のぬくもり」の教会です。故竹内謙太郎司祭によれば、聖餐に与った上にみんなで食を囲んで明るく和気あいあいの雰囲気から「食べる教会」だそうです。きっとその伝統?が地域に住まう人々のオアシスとしてお菓子作りの「幼児クラブ」、250食を供する「南馬込アグネス子ども食堂」など、地域の一員とし

て奉仕する活動に繋がっているのでしょう。竹内先生も主の御許で微笑んでおいでかもしれません。

聖パウロ教会

今北 理

当教会の創立記念日である聖霊降臨日にオープンチャートを実施した。教会を知っていたく宣教伝道の機会として、聖書のみ言葉展示とオルガンコンサート、ミニバザーなど。その後、地域の音楽家から、このよなコンサートでボランティア演奏をしたいと申し出も頂いた。地域の方々との繋がりが、感謝とおもてなしの姿勢を今後も大切にしていきたい。

目白聖公会

藤森 邦子

昨年11月高橋主教様からの緊急要請により、コンゴからの避難民の方々が目白聖公会の牧師館で一時滞在をしました。ある日行ってみると彼らは自分達で調理をしていました。故郷のフフ(とうもろこしの粉を練った主食)を食べたときはどんなに嬉しかったことでしょう。彼らの状況が少しでも良くなりますようにと祈ります。

東京諸聖徒教会

5月19日の礼拝後、念願の愛餐会を開き聖霊降臨日を祝うことができました。

「日々の糧」を歌い、手作りの赤いボルシチをいただきながら、和やか

な時を持ちました。新たに始まった放課後等デイサービスと2年目の学童保育とが連携している様子も伺い、幼稚園を閉じた諸聖徒教会が再び子どもたちのための居場所となっていくことに感謝です。

東京聖テモテ教会

毎月第2・第4水曜日の夜7時から夜の聖餐式をささげています。夜の聖餐式で初めて教会に来たという方や普段は別の教会に通っているという方など、色々な方が集まります。なかでも特徴的なのは若い人が多いことです。聖餐式の後には皆でお菓子を囲んで、和気藹々と日頃のことについてお話をしています。興味のある方は是非いらしてください。

神田キリスト教会

当教会は秋葉原の電気街から一歩入った場所にあります。賑やかな街と比べると静かな祈りの場となっています。

日曜学校も再開され子ども達の楽しい声がかかります。

5月26日(日) 高橋宏幸主教巡回日に下条裕章司祭の牧師任命式と信者さんお一人の堅信式がおこなわれました。

今年もキャンプ・敬老の集い・バザーにむけて会議が始まっています。

月島聖公会

6月のとある主日の朝。保育園の園庭には今年もびわがたわわに実り、子どもフリースペースにやってきた子ども達の元気な声が響きます。窓から見えるのは広い空と運河の流れ。対岸を行きかう人々。都会の真ん中にありながら、のびやかな気持ちで、そして街の営みも感じながら礼拝をお捧げする：月島聖公会は小さいですが、とても豊かな教会です。

浅草聖ヨハネ教会

コロナ禍前の「ヨハネバザー」に代わり、新たなコンセプトで「オープン・チャーチ&ミニ・マルシェ2024」を10月に実施予定。近隣のみなさま、関係機関のみなさま、そしてヨハネ教会のメンバー同士が『知り合う』、『つながる』ことをキーワードに、教役者・信徒それぞれのイメージを膨らませて話し合いを重ねています。

聖救主教会

小野 哲

従来、教会内の清掃はキッドスクールの父兄に頼っていたのですが、近年は生徒が減少し、また来年度を最後に閉鎖してしまうため、4月より信徒が毎週礼拝後に行なうことになりました。

特段、どここの場所を誰が担当とは決めてはいませんが、それぞれが自

主的・積極的に携わっております。清掃を通じて、信徒同士の仲も、より深まったように感じます。

神愛教会

神愛教会は7月7日、創立118周年記念礼拝を高橋宏幸主教とともに捧げました。1906年に、上野駅東の下谷万年町で神の愛のもとに後藤桑吉司祭を中心に集い、関東大震災被災のため東日暮里の地に移り、戦災を経て、旧礼拝堂を修復、26年前に現在の礼拝堂を建設しました。100年宣言を胸に、互いに愛し合い、知恵と勇気をもってこれからも進みます。

葛飾茨十字教会

広瀬 英子

奏楽の学びの為に上田亜樹子司祭を訪問しました。「この聖歌のどの語句を一番伝えたいですか」と問われ、びっくりしつつも一つの語句を伝えたいと「では、その積もりで弾いて下さい」「では2節では、どの語句を伝えたいですか」ということで、同じ聖歌でも節によって異なる奏楽を求められたことに驚きましたが、良い学びになりました。

聖ルカ礼拝堂

平日朝8時半より2Fトイスラーホールでチャプレン達による朝の礼拝を行っています。日課の福音書に

耳を傾け、いくつか黙想のヒントをいただいで、数分間の黙想の時。忙しい日々ですが、朝のひとつき、聖霊に満たされて幸せな祈りの時です。聖路加に用事はないほうがよいですが、礼拝にはぜひお越しください。

東京聖三一教会

大規模修繕が完了し、復活日から外壁などがきれいになった聖堂で礼拝を継続しています。聖霊降臨日から主日礼拝のプロセッションを、2020年以前の方法である聖堂入り口から戻しました。礼拝後は、1階ホールで、お茶やコーヒーで交わりのひと時を持っています。6月から礼拝直後に、適宜小さな勉強会も行っています。

東京聖十字教会

1924年創立の当教会は今年百年を迎えます。記念礼拝に向けて本格的に準備が始まりました。アイデアを出し合いながら、礼拝・記念品・記念誌・祝会・献金の担当に分かれ、皆で力を合わせて進めています。記念礼拝は12月7日(土)に高橋主教様をお迎えして行われる予定です。どうぞお祈りの内にお覚え下さい。

阿佐ヶ谷聖ペテロ教会

香取 智子

阿佐ヶ谷聖ペテロ教会は、来年2025年に100周年を迎えます！

2025年6月28日(土)には100周年記念礼拝を行うことも決定し、今まで阿佐ヶ谷聖ペテロ教会に関わって下さった聖職者と信徒をご招待する予定です。

その他にも記念誌の発行やコンサート、バザー等、様々なイベントを企画中です。

100周年をきっかけに、古き良き時代を振り返りつつも、阿佐ヶ谷らしい未来をどのように築いていくのかを考えていきたいと思っています。

インマヌエル新生教会

食料・日用品支援活動である「わかちあいマルシェ」が定着しています。「わかちあいマルシェ」は、2か月に1回、信徒の寄付で集められた「食料品・日用消耗品」を、地域で必要としている方に無料でお持ち帰りいただき、食事を共にする企画です。6月1日(土)に第11回目を開催し、スタッフ25名を含め、全部で80名の方が参加されました。

立教学院諸聖徒礼拝堂

菊地 雄大

私たちの立教学院諸聖徒礼拝堂では、今年度から『Gathering Day』として毎月の第3日曜日をチャペルに集まる日として特別に憶えています。

学生キリスト教団体のメンバーも含め、昨年よりたくさんの方が参列

しました。ペンテコステを通し、改めて聖霊によって教会に集められる喜びを実感しています。

清瀬聖母教会

敷地内にクヌギやナラの系統の巨木があります。2020年には「ナラ枯れ」が清瀬にも及び、8月に2週間ほどで枯死してしまいました。去る5月28日の強風と雨の夜、「ドシン！」という音をたてて住宅脇のコナラが倒れました。直径8センチ高さ15メートルもある巨木が倒れて電話線が切れただけでした。奇跡に守られました。主に感謝。

聖パトリック教会

聖パトリック教会では、5月25日に信徒のFさん宅を会場に「ガレージ・セール」を開催。衣料品からアクセサリー、雑貨などと共に軽食もご提供。地域の方々にお楽しみいただきました。一つひとつの金額は小さなものですが、ご奉仕してくださいました皆さんと労働の喜びと心地よい疲労を共有。実りは全額、能登半島の震災復興支援にお献げしました。

聖マルコ教会

教会の庭は色とりどりに紫陽花が花盛り、真紅の百合の花も咲き始めた。聖霊降臨日には『聖霊を受けなさい』との福音書に感謝し、聖霊は

東京タワーの麓

居 場 所

「楽譜に書いてある通りに几帳面に、規則に合ったことをやって『はい、これで終わり』』というような演奏会をされたら、みんなバカバカしくなって音楽会に来なくなる」とは、世界に名だたる指揮者小澤征爾氏の言葉です。

また、医療の現場に於いても「規則正しい」「規則正しく」という言葉が使われ、心電図や脈拍数、生活習慣などに当てられる一方で、診察室に入るや真っ先に顔を見、聴診器を当てながらもこちらを射抜くような眼差しで見ておられるドクターに恵まれている自分を振り返る時、「このドクターは信頼、安心できる、尊敬できる」という思いを強くさせられます。病気や不安もさることながら、自分を観(診)てくださっているということであり、癒すことにも心を注いでおられる様子を窺い知ることができます。

イエス様がそうでいらしたように、癒しとは日常の中でも求められ、大切にされます。私たちは辛い思いはしたくありませんし、悲しい思いも避けたいものです。しかしながら期せずしてそういう場面に遭遇したり、そういう心境にさせられたりもします。けれども、辛い思いや苦しかったこと、悲しかったことがいつか糧にもなり得るということに、大分後になってから気付かされることがあります。人間ゆえ愚痴をこぼすことも弱音を吐くこともあります。そういう自分を優しく包み込むことが癒しに通じる道なのかも知れません。同時に、自分の大切な居場所を見出すことにもつながっていくようです。

居場所ということで、あるホテルのフロントでのことです。チェックインをする客に向かってフロントの方が笑顔で「お帰りなさいませ」と声をかけている場面を目にしたことがあります。「いらっしゃいませ」より遥かに素敵なものを感じました。そこには、例え数日であっても我が家のようにゆっくり過ごしてほしいとの願い、大切な居場所であって欲しいとの心を感じさせられました。

その光景を見ながら、本当の居場所とは建物とか地図上の一点ではなく、自分が大切だと思ひ、傍にいてほしいと思える人や心、自分のこと心に留めてくれる人や心、自分の存在を受け容れてくれる、本来人間に注がれている癒しの心の中にあるのでしょうか。

(主教 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸)

人と人をつなぐとの説教を聞き、目に見えない聖霊の働きに思いを巡らせた。同日、多摩G協議会では高橋顕司祭から「信徒の学び」と題し 勧話・奨励・証しについて伺った。充実したよい一日となった。

小金井聖公会

教会の小さな庭で折々の花々が咲

き満ち、教会暦の歩みと季節の流れを感じます。 コロナ禍が緩和されて再開された月に一度の昼食会ですが、本当に嬉しい交わりのプログラムです。 大斎節中の礼拝や日曜日の礼拝には、時々、他の教会の方だけでなく他教派の方も出席されました。教会

は、「祈るためのステーション」だと改めて思います。

◇ ◇ ◇

次回 秋号

10月27日発行予定